

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
「ICTによる高齢者孤立化防止モデル普及事業」中間報告

ICT機器を用いた高齢者の孤立防止 都市部での社会実験と普及事業の経過

2011年10月29日

(社)シニア社会学会
森 やす子

- ICTは Information and **Communication** Technology
情報通信技術
- ITは Information Technology
情報技術
- いつから使われている??
平成17年版情報通信白書で『総務省としては、これから実現を目指すユビキタスネット社会では、豊かなコミュニケーションが実現するという点が最も重要な概念であることを踏まえ、情報通信におけるコミュニケーションの重要性をより一層明確化するため、本文においては原則として「ICT」の語を使用している。』とされている。
- ICTの利用と高齢者の暮らしについて、平成22年版情報通信白書では、ICT はアクティブシニアの積極的な社会参加を促進したり、高齢期の生活をサポートしたり、加齢に伴う機能低下を補完したり、要介護・要支援になってもコミュニケーション手段と自己決定手段を確保するなど、様々な側面で支えるものである、としている。

- H22年度事業の社会実験では、VoViT (c) 注 (タッチパネル式ICT機器に搭載されたコミュニケーション支援システム)を高齢者宅に設置した。



- 注：団体会員である株式会社情報環境デザイン研究所（東京都文京区）が開発したシステムである。

社会実験の実施地域



社会実験は、東京都江戸川区清新町にある葛西クリーンタウンの清新北ハイツで実施した



社会実験の参加者

- 利用者：機器を利用する高齢者 9名（男5名、女4名）
- サポーター：機器を利用する高齢者をサポートする中高年齢者（男5名、女2名）
実施時にサポーターの機能で役割をサポーターとコミュニケーションサポーター（コミュニケーター）というように分けた



第一段階：設置～第1回顔合わせ会(2010/12/18)

課題「VoViTの操作に慣れる」

- 担当サポーター・コミュニケーターと、電子メールやテレビ電話でやり取りしてみる

(この期間に担当のサポーターとオフラインでも馴染みになる)

第二段階：第2回顔合わせ会(2011/1/29)

課題「サポーター以外の人と交流してみる」

- 利用者同士でも、電子メールやテレビ電話でやり取りをしてみる。

第三段階：～実験終了(2011/2/20)まで

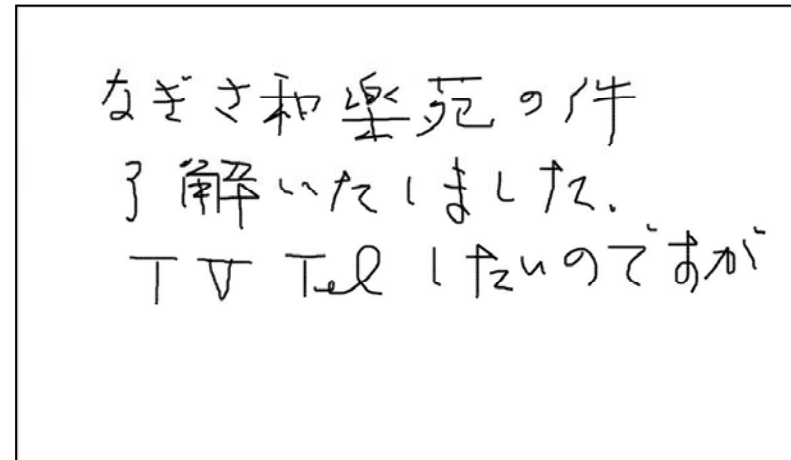
課題「遠方に住む親しい人とも連絡を取り合う」

- 年末年始に新たにアドレスを登録した方と交流する

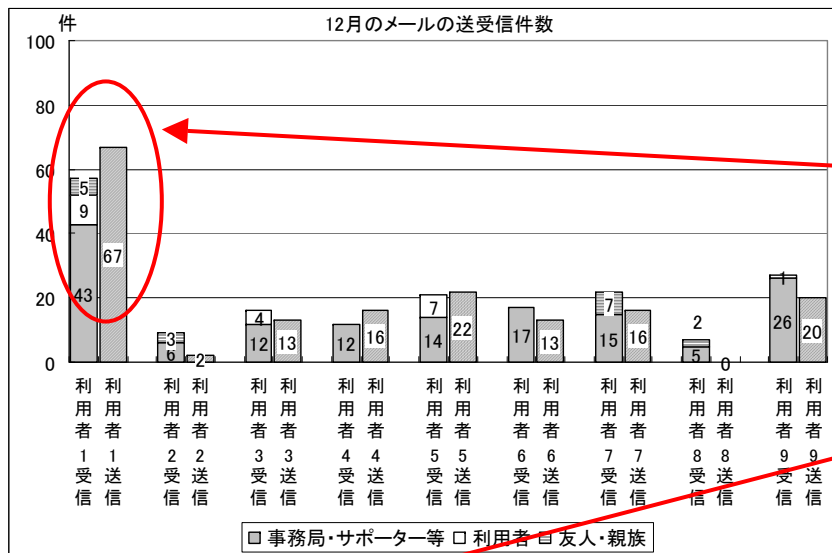
VoViTの手書きメールの例



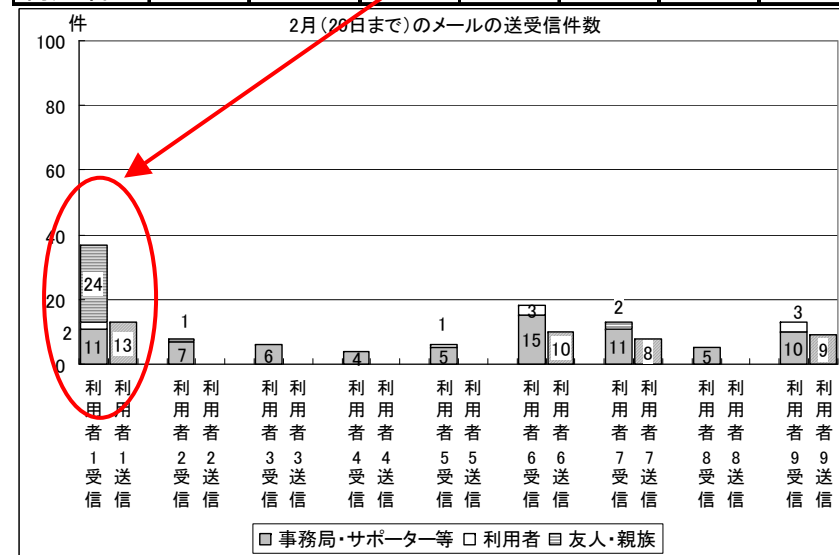
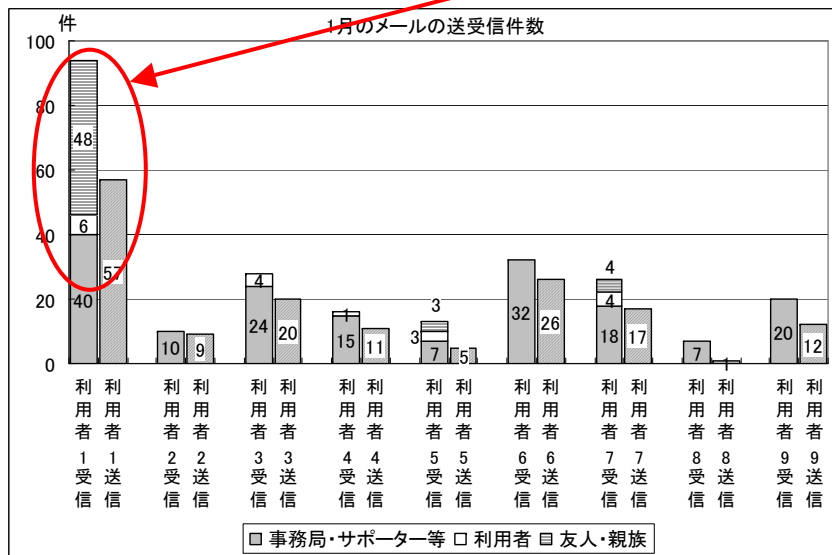
手書きの年賀メール



手書きメール



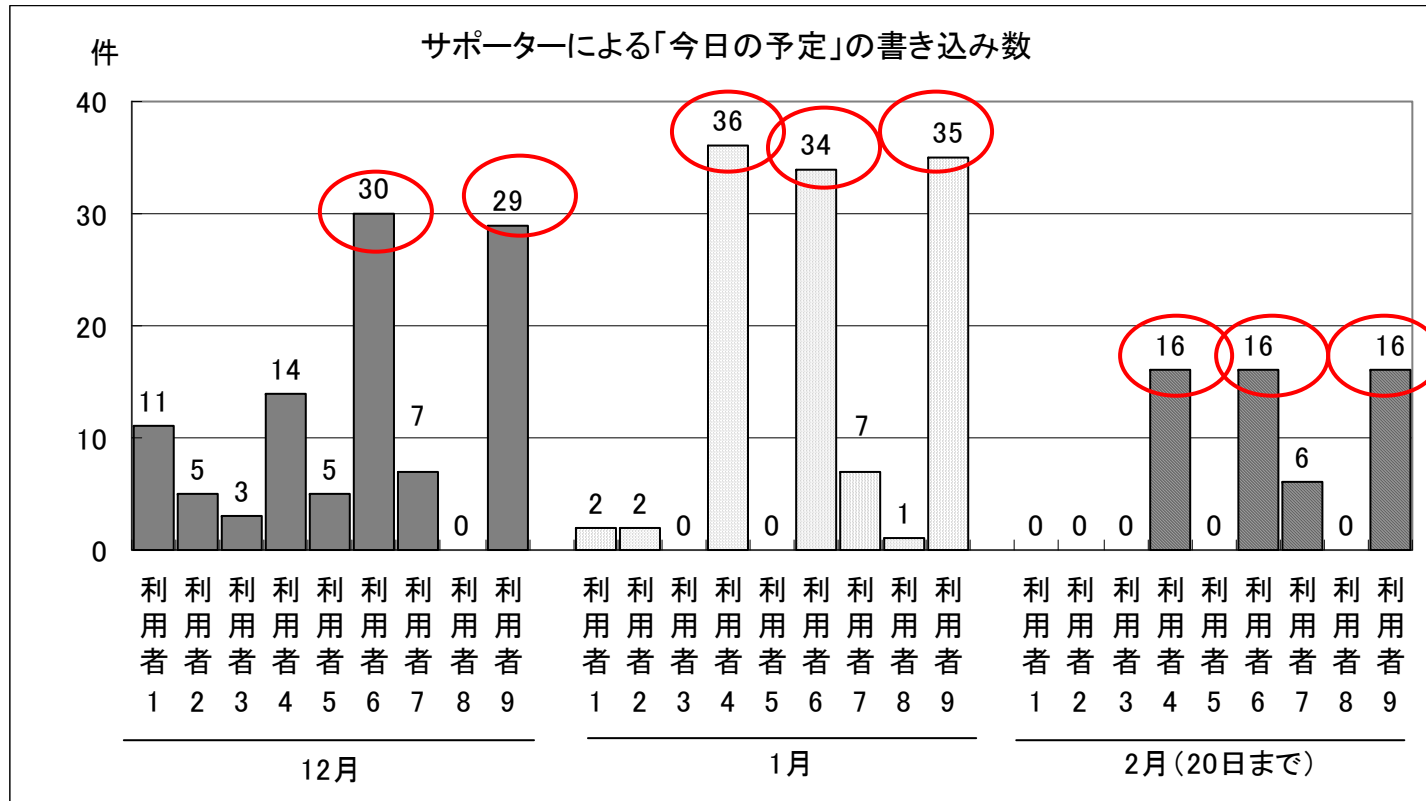
	事務局	ケータ コ ミ ニ	サ ポ ー タ	利用 者	友 人	親 族	地 域 包 括	計
利用者1	2		7	8	2	3	1	23
利用者2	2		7	8				17
利用者3	2		7	8				17
利用者4	2		7	8				17
利用者5	2		7	8		1		18
利用者6	2		7	8		1		18
利用者7	2		7	8	1	2		20
利用者8	2		7	8		1		18
利用者9	2		7	8				17



・書き込みが多い利用者は全てサポーター5(女性)が担当している。

・書き込まれた内容は、地域のイベントや季節の話題や団地の情報など、日常の役立ち情報に類するものであった。

	年代	性別	担当
サポーター1	60歳代	男性	利用者3, 利用者5
サポーター2	50歳代	男性	利用者1
サポーター3	70歳代	男性	利用者2, 利用者7
サポーター4	50歳代	男性	利用者8
サポーター5	60歳代	女性	利用者4, 利用者6, 利用者9
コミュニケーター1	60歳代	男性	
コミュニケーター2	60歳代	女性	



テレビ電話

	家族と連絡	友人と連絡	他の利用者と連絡
利用者1	週に0回くらい	週に0回くらい	週に6回くらい (特定の方とほぼ毎日)
利用者2	週に0回くらい	週に0回くらい	週に0回くらい
利用者3	週に0回くらい	週に0回くらい	週に2~3回くらい
利用者4	週に0回くらい	週に0回くらい	週に1回くらい
利用者5	週に0回くらい	週に0回くらい	週に10回くらい (団地内の准サポート役 の方との間)
利用者6	週に0回くらい	週に1回くらい	週に1回くらい
利用者7	週に0.5回くらい	週に0回くらい	週に0.5回くらい
利用者8	週に2回くらい	週に0回くらい	週に0回くらい
利用者9	週に0回くらい	週に0回くらい	週に1回くらい

- ・テレビ電話(Skype)の相手は、離れて住む家族とは時間が合わずかけられない。
- ・利用者同士は、メールよりテレビ電話が便利

- **独居の80歳代男性と他の男性利用者間で、テレビ電話によるやりとりが行われた。**
 - 交流のなかったお二人の間で、顔合わせ会の後、ICTを通じた日々のやりとりが行われるようになった。
- **独居の70歳代女性は、サポーターが毎日書き込む「今日の予定」に応えることで、「見守られている」ことを実感できたと述べている。**
 - サポーターからの書き込みが無かった日、利用者からサポーターに逆安否をしてしまった。
- **携帯電話を持たない70歳代男性利用者は、家族からの携帯メールを受信するのにVoViTを活用している。**
- **社会実験後、60歳代の利用者は、PC講座に通ってPCを利用するようになった。**

- 高齢者は、実際に顔を合わせて話をしたことがある人でないとWeb上のやりとりを躊躇する傾向がある。
 - そのための仕掛けとして、実際に顔を合わせて話ができる場を設定することが必要である（今回は、顔合わせ会やお茶会を行った）。
- 「今日の予定」による応答は、利用者が簡単に対応でき、しかも「見守られている」ことを実感できたものであった。
 - サポーターは端末の使い方の支援だけではなく、利用者に対して何げない「立ち話的」なコミュニケーションによるサポートが求められる。
- 本社会実験では、サポーターとコミュニケーションサポーターというように、手段的サポートと情緒的サポートという役割を担う二つのサポーターを設けた。
 - サポーターとして、これら二つの役割を担える人材が必要であろう。
 - 一般社団法人シニア社会学会では、今年度助成を受けてサポーター養成講座を全国3箇所で実施する。

ICTを活用した孤立防止モデル



今年度後連携を手がける部分

概念図: ICTを活用した孤立防止モデル

VoViTサポーターの養成と認定の実施

本助成事業で、3地域（大阪、三鷹、北見）でサポーター養成講座を行っている。大阪と三鷹は終了。北見は11月5日と6日実施。

その他、

- 東京都地域支え合い体制事業の選定を受けた多摩東部の事業に参加し、VoViTサポーター養成と認定を行う。
- 愛媛県での地域支え合い体制事業でもVoViTを用いて「見守り・買い物弱者支援」事業を行うので、現地でVoViTサポーター講座を行い養成と認定を行う。

ご静聴ありがとうございました

<http://www.vovit.jp>

○